

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2021 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	40-29-1	衰退するコミュニティ対策	福岡県北九州市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	ピース・ストリート		

（注1）地域課題タイトルは、COG2021 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	北九州市立大学 小林ゼミ		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数（公開）	2名		
代表者（公開）	広石 輝		
メンバー（公開）	荒岡 梨乃		

#### 【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2021\_応募用紙\_具体的なチーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2021 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2021@pp.u-tokyo.ac.jp

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
 

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示－非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

＜チームメンバー名簿＞

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### (1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

新型コロナウイルスが流行で交流の場や機会が減少したことで人々の孤立やコミュニティの衰退が危ぶまれている。

そのため、コロナ禍であっても孤立をせず交流する機会を作り出さなければならないと考える。

現状、北九州市でもコロナ禍でのメンタルケアなどの取り組みが行われているが、生活を楽しむ取り組みやコミュニティの醸成などは未だ課題として残っている。コロナ禍であっても生活を楽しめる、人と人が関わる一瞬のコミュニティをいかに有効活用するかが重要なのではないかと考える。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

「何を」…道路に様々なプリントを施す

「誰が」…歩行者

「どこで」…主に歩道

「どのように」…歩く、外出するのが楽しくなる

北九州市のコロナ前後の地域の状況を調べたところ新型コロナウイルスの影響を受けていることが分かった（4、5 ページ アイデアの理由 <北九州市の現状> 公共施設の利用率の変化 データ①より）

また、北九州市の地域コミュニティの現状について調べたところ、子ども食堂やフットパスなどを通じて各区で地域を盛り上げる様々な取り組みが行われていることが分かった。（5 ページ アイデアの理由 <北九州市でのコロナ禍における取り組み状況> より）

しかし、それらの活動は対象がその区の住民に限られていたり、自治会に所属しなければならなかったりとソーシャルディスタンスを伴う生活をしている中での何となくの虚無感や寂しさを改善には不十分ではないかと感じられた。

私たちはそんな孤立感を伴うちょっぴり憂鬱な生活が楽しく、そして誰もがその楽しさを共有できる活動を提案する。

活動の拠点は多くの人を通る歩道や市内のバス停などに様々なストリートプリントを施すというものである。

#### ●ストリートプリントの詳細

ストリートプリントは型押しとコーティングによってアスファルト舗装の表面を、石畳やれんが敷きのように加工する工法であり、様々なデザインパターンとカラーの組み合わせが可能である。これを利用し、歩道やバス停に様々なイラストや文字をプリントする。また、ストリートプリントは初期コストが安く、経済的でもある。アスファルト路面の寿命を延長するなどのメリットもある。

#### ●プリントのデザイン案

・足跡

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

原寸大の動物の足跡や恐竜の足跡などを地面にプリントする。自分の足の大きさと比べたりすることができ、遊び心がくすぐられるような仕掛けになるのではないかと考えている。また、動物の足跡の近くには北九州市の「到津の森公園」、恐竜の足跡の近くには「いのちのたび博物館」のサイトにつながる QR コードもプリントすることで来館数の向上にも貢献できるのではないかと考える。

※写真はイメージ、QR コードは北九州市の LINE アカウント



#### ・小説の一節

何かの小説の一節をプリントする。ふと足元を見て、読むとちょっと前向きになれたり、元気になれるような文章などをプリントする。場所を図書館の近くにすると何の小説か気になって立ち寄る人も増え来館数の向上につながるのではないかと考える。また、北九州市の作家である「松本清張」などゆかりのある人物の作品を参考にするのも良いのではないかと考えている。

#### ・ケンケンパ

子供の頃に遊んだ人も多いであろう「ケンケンパ」の円を歩道にプリントする。つい、あると遊んでしまうような形の並びを生かしたものである。広い歩道などであれば、子供などがその道を達際に遊ぶことも可能である。また、遊ばなくてもカラフルな円が描かれている様子は歩道を明るくにぎやかな雰囲気にするのではないかと考える。

#### ・線遊び

ケンケンパに引き続き、ついあると遊んでしまうシリーズである。子供の頃、白線を踏みながら歩いたことのある人は多いのではないだろうか。イメージ図のような線を歩道に引くことでそれ線に沿って歩いてしまう、というような仕掛けである。デザインとしても良いのではないかと考える。ここでは歩道としているが、公園にプリントすることができればもっと線を利用した遊びをすることができるのではないかと考えている。

※イメージ



#### ・トリックアート

これはよく用いられている用法だが、歩いている際に目を引くトリックアートを歩道にプリントするというものである。驚くような絵でも良いが見るとつい、和やかになってしまうような絵であれば歩くのも楽しくなるのではないかと考える。

## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

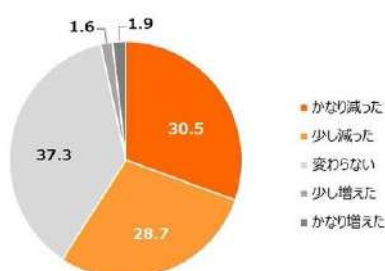
<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

<コロナ禍におけるコミュニティの変化>

新型コロナウイルスの流行によって、私たちの生活は大きく変化しました。リモートワークやオンライン授業などの対面を避けた活動が増えたことで、人との会話する機会は減少したと言える。

■コロナ禍前と現在との比較で、人との会話の時間はどうなりましたか。



参照：<https://saleszine.jp/news/detail/2384>

会話が減少したことによって、どのような影響が生じたかという調査では約 50%の人がストレスを溜めやすくなったと回答している。

■人との会話が減ったことによってどんな影響がありましたか。



参照：<https://saleszine.jp/news/detail/2384>

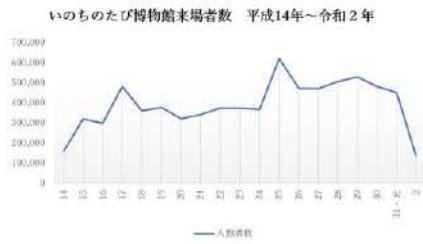
<北九州市の現状>

コロナ禍前後で北九州市の地域のにぎわいがどのように変化しているのかを公共施設の利用状況の推移と観光客数の推移によって推察する。

・公共施設の利用率の変化

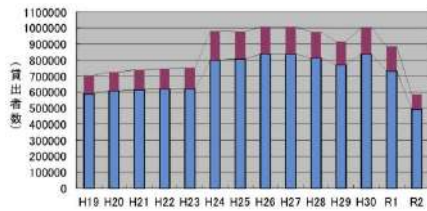
## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）



(北九州市立いのちのたび博物館の来場者数推移)

参照：[https://ckan.open-governmentdata.org/dataset/401005\\_inochinotabimuseumnumberofvisitors](https://ckan.open-governmentdata.org/dataset/401005_inochinotabimuseumnumberofvisitors)



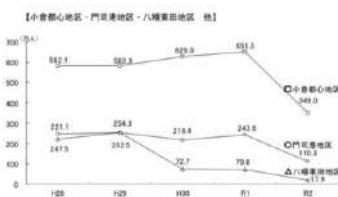
※棒グラフ赤：児童 棒グラフ青：成人

(北九州市内図書館の利用者数)

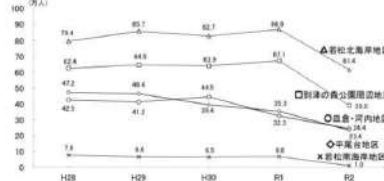
参照：<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000944493.pdf>

### ・観光客の推移

〇地区別観光客数の推移



【若松北海岸地区・刺津の森公園周辺・平尾台地区 他】



参照：<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000948018.pdf>

→令和元年～2年度にかけて公共施設の利用者や観光客数が減少し、地域のにぎわいの衰退が考えられる

### 〈北九州市でのコロナ禍における取り組み状況〉

北九州市の地域の「ちから」報告会より、コロナ禍でも各地域で感染症対策等に配慮しながらも継続して行われている地域活動について

参照：<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/shimin/15800029.html>

1. 大里東校区子ども食堂 食育「五つの力」地域の力でコロナ対策もバッチリ！
2. 会えなくてもひとりじゃない 小倉っ子の思い届け
3. 三世代で育てよう 安心・安全で住みよいまち 学校と連携した地域活動
4. つきだ「フットパス」コロナ禍での「小径さんぽ」による、ふる里再発見

各区で様々な取り組みを行っていることが分かる。子どもや高齢者を対象とした活動が多く、各自治会と連携して行われている。しかし、これらの活動は対象とする人が年代や区で定まりがちで、継続性や自治会との連携等の「拘束性」が伴われる。このような地域コミュニティの中では補いきれないコロナ禍でのちょっとした生活の憂鬱を晴らすには「フットエンジョイプリント」を活用するのが良いのではないかと提案する。

## (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

## 【1. 実現する主体について】（人）

- ・国土交通省や北九州市行政機関
- ・北九州市民

## 【2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）について】

## ヒト

- ・国土交通省、市の公安課などの道路に関わる行政機関→国道・市道・私道や景観条例などをもとに必要な法律の知識に精通した街路課職員からの協力を仰ぐ。
- ・歩行者
- ・ストリートプリントを行う業者

## モノ

- ・北九州市内の歩道やバス停や図書館や公園などの公共施設など

## カネ

- ・ストリートプリント代（価格帯は業者と要相談）

価格参照：<http://kohyo.kensetsu-plaza.com/search/price/C0112200/>

<http://kohyo.kensetsu-plaza.com/search/price/H020010010120/>

## 【3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス】

- ・令和4年度に取り組み開始した場合

令和4年4月	国土交通省や市の所管課を調査
令和4年5月	所管課に歩道の一部にプリントすることを相談（ラフデザインを添えて）
令和4年5月	どんなものをプリントするか提案（デザインを添えて）
令和4年6月	必要な申請を実施→所管課受理
令和4年7月	所管課にて審査実施
令和4年7月	所管課より審査結果の通知（以下、審査結果でプリントOKとなった場合）
令和4年8月～	
令和5年1月	所管課で予算関係の準備
令和5年2月	所管課で予算確定（以下、予算確保ができた場合）

令和 5 年 4 月 所管課が業者選定の手続き実施（一般競争入札など）

令和 5 年 5 月 業者決定

令和 5 年 6 月 舗装作業開始～完了

※上記日程は目安

・市との連携について

企画は段階的に実施していくことを計画している。そのため、市との連携は不可欠になる。まずはプリントするエリアを市道中心に行うことを考案している。また、プリントのデザイン案でも紹介した足跡と公共施設の QR コードなど、市内施設と関連のあるプリントを施すことで市との連携を図りたいと考えている。